

令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立小池小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・実物に触れたり、生活経験を想起したりするなど、自然事象との出会いの場면을工夫したことで、問題を発見でき、意欲的に問題解決に取り組むことができた。
- ・生活体験や既習の学習を想起させるように指導・助言の工夫をすることで、予想を立てることができる児童が増した。

(2) 課題

- ・単元で学習したことへの理解が深まっていないため、自分の言葉で説明するなどの活動をさらに取り入れる必要がある。
- ・実感を伴う理解を深めるために、実験や観察、それらへの考察の活動を充実させることが必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

【◎…目標値を上回った(+5以上) ○…目標値と同程度(±0～+4.9) ▲…目標値を下回った】

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	▲		
第5学年	○	◎ (第4学年時)	
第6学年	○	◎ (第5学年時)	◎ (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率が目標値より下回った。特に、「こん虫のからだのつくり」の領域の正答率が低かった。昆虫であるならばあしが6本であることなどの理解に課題が見られた。観察の機会と用語を正しく理解して活用する機会が少なかったことによるものと考えられる。	正答率が目標値より下回った。特に、「植物の育ち方」の正答率が低かった。ホウセンカのからだのつくりをもとに、ネギのからだのつくりを推測する問題に誤答と無回答が多く見受けられた。基本の知識を手掛かりに、問題を解決する力に課題が見られた。	正答率が目標値より下回った。理科に対する興味・関心が低い児童が多い。特に、「じしゃくのせいしつ」の正答率が低く、誤答と無回答の割合が高かった。自分の考えに自信をもつことができないことによるものと考えられる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率が目標値を上回った。実感を伴って理解できた学習については、定着度が高い。特に「魚のたんじょう」についての問題では、正答率が高かった。	正答率が目標値を上回った。基本の知識を手掛かりに、問題を解決する力が身に付いている。特に、「物の体積と温度」についての問題では、正答率が高かった。	正答率が目標値を上回った。理科に対する興味・関心が高い児童が多い。特に「天気のようにすと気温」についての問題では、正答率が高かった。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○昆虫に触れたり継続して観察したりする機会を多く取り入れ、身の回りの生き物について、器具や機器を正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録できるようにする。 ○教科書やデジタル教材等を活用し、学習で用いる器具などの正しい使い方を理解できるようにする。	○植物の育ち方について記録を基に考察し、表現できるようにする。 ○実験や観察前は、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想を立てることができるようにする。 ○「理科ノートの達人」を確実に使用させ、説明の仕方を身に付けたり、原因と結果を結び付けて考えたりすることができるようにする。	○「理科ノートの達人」を参照させる機会を設定することで、自分の考えに自信をもって表現することができるようにする。 ○学習内容を生活に生かせるような振り返りを行うようにする。また、磁石の性質等、日常生活でどのように生かされているかをデジタル教材等を活用し、提示する。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○教科書やデジタル教材等を活用し、学習で用いる器具や機器などの正しい扱い方を理解できるようにする。 ○実際に器具を操作する活動等を行い、実感を伴う学習を行うようにする。	○原因や根拠を明確にしなが、ら、事象や現象を説明する活動を通し、理科の用語を正しく使い、実験の組み立ての理由等を説明できるようにする。 ○学習したことを生活に結び付けて考えることができるようにする。	○理科で学習する事象・現象について、児童の身近な体験と関連付けることで、興味関心を高め、より主体的に学習に取り組むことができるようにする。 ○学習内容を生活に生かせるような振り返りを行うようにする。